

ピーマン

使用産地：岩手県、茨城県、宮崎県、沖縄県など

使用目的：

作型により、ピーマンは長期間の収穫作業が有り、根の力により収量・品質に差が出ます。根の生育環境が非常に重要となります。その根域の改善にコフナは役立ちます。

- ・ 収穫量を増やしたい。安定収量の維持をはかりたい。
- ・ 品質の向上を図りたい。
- ・ 収穫期間を長く取りたい。
- ・ 農薬の使用量を出来るだけ減らしたい（土壌消毒剤を使用しない）。
- ・ 土壌消毒後にコフナを使用し、微生物性の回復を図りたい
- ・ 圃場の中で、悪い部分の土壌改良を行いたい。
- ・ 残っている肥料分を有効活用し、肥料の投入量を減らしたい。

等々

使用事例：[沖縄県](#)、[各地栽培体系表](#)

使用方法：

(1) 促成・越冬作の場合

コフナを使用した土壌の維持・回復策として3つ挙げます。作型・栽培状況・土壌改良の目的等に合わせて実施して下さい。

- I. 農薬を使用しない土壌消毒方法（コフナ・ソーラー法）
- II. 排水性の向上、腐植の原料の補給に（緑肥のすき込み時に使用）
- III. 土壌病害が大きく発生した場合（土壌消毒実施後に使用）

これらを単独で行う場合もありますし、目的によっては組合せる場合もあります。

農薬を使用しない土壌消毒方法（コフナ・ソーラー法）

太陽熱消毒を行う際に、コフナと有機物を投入して行います。主に5月～9月までの間で、1ヶ月～1ヵ月半以上圃場を空けることが出来る場合に実施可能です。

詳細はコフナ・ソーラー法ページへ

https://cofuna.jp/scene_howtouse/solar/

排水性の向上、腐植の原料の補給に（緑肥のすき込み時に使用）

次作まで数ヶ月程度ある場合は、緑肥を生育させることにより微生物層の改善並びに緑肥の根による深耕を行い、排水性を高めます。最近ではセンチュウ対策になる緑肥も発売されており、それらを使用することによりセンチュウ密度を低くすることも出来ます。（栽培時期にもよりますので、詳細は種苗メーカーにお問い合わせ下さい）

使用方法：緑肥すき込み時に散布

※すき込みから定植までの期間が短い場合は、
緑肥播種前にコフナを投入します。

薬剤等にて土壌消毒を行った後に（土壌病害が大きく発生した場合）

土壌病害が圃場の大部分で発生し、翌年も病害発生が予想される場合は、薬剤消毒を実施することをお勧めします。しかしながら土壌消毒は全ての菌密度を低くしてしまいます。無菌状態の土壌に、病原菌が何らかの理由で侵入・増殖してしまった場合は、病原菌が土壌全体に広がる恐れがあります。そのため、消毒後にコフナを投入し、微生物層の改善を図る事が安定した栽培につながります。

(2) 夏秋作（露地）の場合

生産レベルの維持向上を行いたい場合

- ①収穫終了後：前作残渣・残根の分解・腐植化
- ②定植2週間前まで：活着促進、土壤微生物相の多様化・活性向上

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
コフナ+堆肥有機物・緑肥 ◎ ※収穫終了後できるだけ早めに投入	→				◎ 定植2週間前までに	定植

注意：コフナ投入後は、土を乾燥させないで下さい。
それぞれのコフナ投入量は圃場条件に合わせてご利用下さい。

土壤病害が発生しており何らかの消毒の必要がある場合

地域・その年の栽培の終了する時期により収穫終了時期が異なります。
各パターンを参考に、状況に応じて使用法を変えてください。

例1) 冬場に薬剤消毒の期間を終える事が出来る場合

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
薬剤消毒 ※消毒時の地温に注意	消毒期間 ◎ ガス抜き	←				◎ コフナ+堆肥有機物投入	定植
					※圃場を乾燥させすぎないように		

注意：投入後は、確実に残渣・残根を分解するために圃場を乾燥させないで下さい。
(土をパサパサにさせない。中の有機物が乾燥しないレベル)
事前の土壤消毒は出来るだけ地温が高い間に終了して下さい。

例2) 地温が低いため土壤消毒の期間を長く取った場合（薬剤の秋冬処理時）

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
薬剤消毒	→			◎ ガス抜き	◎ コフナ投入	定植
				←		
						この期間は出来るだけ長く

注意：ガス抜きが終わった後出来るだけ早くコフナを入れてください。

仮に病気が多く発生していた場合は、
コフナ投入後から定植までの期間を出来るだけ長くしてください。

例3) 薬剤消毒を春に行う場合

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
コフナ+堆肥有機物・緑肥 ◎ ※終了後できるだけ早めに投入				→	薬剤消毒	定植

注意：薬剤消毒後は定植までの期間はなるべく長く取ってください。

また春に堆肥を入れる場合、未熟なものは初期成育に悪影響を及ぼす事があります。

コフナ散布後微生物が増殖する時間が有れば、薬剤消毒を実施しても回復は早くなります。

例4) 春先に還元消毒を行う場合

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
	パターン①コフナ事前投入			パターン②コフナ同時投入		
◎ →				◎	還元消毒	定植
※終了後できるだけ早めに投入				※作業が間に合わない場合は		

注意：還元消毒を実施する場合、使用する有機物は実施直前に投入しますが、

コフナは早め（前作収穫終了後）に入れても問題ありません。

その他の方法

- ・熱水消毒を行う際に使用（実施前にすき込み）
- ・蒸気消毒を行う際に使用（実施前にすき込み）

コフナには、高温で活動する微生物が含まれているため、これら消毒と併用し消毒効果の安定度を高めることに役立っています。

沖縄県

～具志頭～

JAおきなわ具志頭支店野菜生産部会ピーマン専門部

平成26年コフナ会総会にて表彰

<同部会栽培歴>

ピーマンの栽培歴

○→は種 △→定植 ▨→収穫

	7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
生育 ステージ																																							
管理作業	本畑(耕起・整地)			土づくり			播種			定植			播種			収穫誘引			収穫			収穫			収穫			収穫			収穫			収穫終了					

平成9年 農林水産省より冬春ピーマンの指定産地に

平成10年4月ピーマン専門部会スタート

平成18年 一部の生産者がコフナを使用開始

平成20年 部会員全員がエコファーマー認定

平成20年 環境保全型農業推進コンクール 農林水産大臣賞受賞

※部会の出荷の20%程度はコフナ使用者からとなっています。

使用目的：当初は立ち枯れ病の対策としてスタート。現在では特に冬場の出荷の安定化を目指して、土づくりの一環として



品種は主にちぐさ（ジャンボピーマン）園芸育種研究所



紹介農家：〇様

経営面積：3,700坪

栽培品種：ちぐさ

収穫量：2018年は123t/3,700坪（※具志頭支店ピーマン部会全体で1,000t）

使用経緯：当時の部会長のコフナ・ソーラー法展示圃試験の結果を見て翌年から使用

使用結果：病気が減って、収量増に繋がった（10年以上コフナ使用）

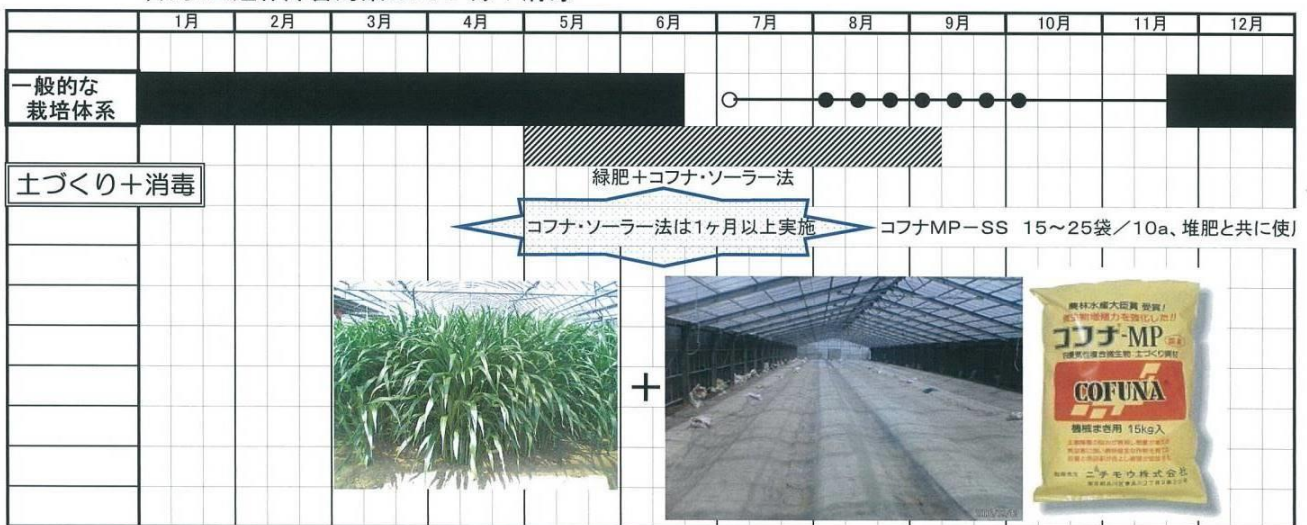


平成26年のコフナ会でも優良生産者として表彰させていただきました。

具志頭ピーマン部会様

平成25年6月14日

目的：■連作障害対策の土づくり+消毒



○ 播種 ● 定植 ■ 収穫 ■■■ コフナ・ソーラー法 ■■■ 緑肥 × 薬剤消毒

